

福島第一原子力発電所 作業環境の改善状況について

2018年11月16日

東京電力ホールディングス株式会社

1. 作業環境の改善状況

- 発電所構内においては、汚染状況に応じて、3つのゾーン（Red/Yellow/Green）に分類しそれぞれに適した装備を着用する運用を行っています。
- これまでフェーシング・ガレキ撤去等の放射線量低減対策に伴い汚染状況が低減され、より軽装備（ヘルメット・使い捨て防じんマスク・ゴーグル・手袋・作業用靴）で入域が可能なGreenゾーンは順次拡大を行い、現在では敷地面積の約96%となっています。
- また、Greenゾーンの中でも、放射性物質による汚染の広がりがないことを確認できたエリア（入退域管理棟・休憩所周辺・免震重要棟周辺等）については、2017年3月30日以降、シューズカバー無しで**手袋の着用のみ**で移動が可能な範囲としました。

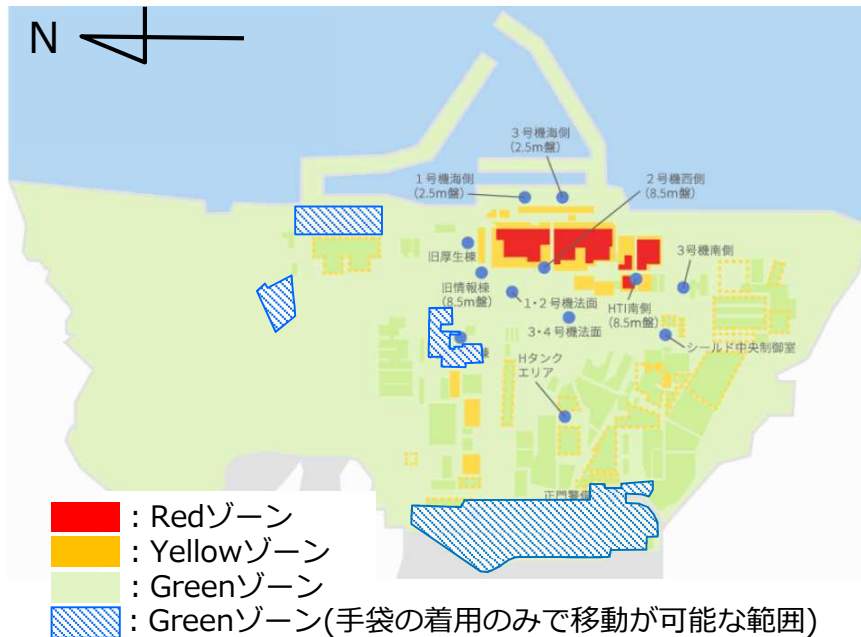


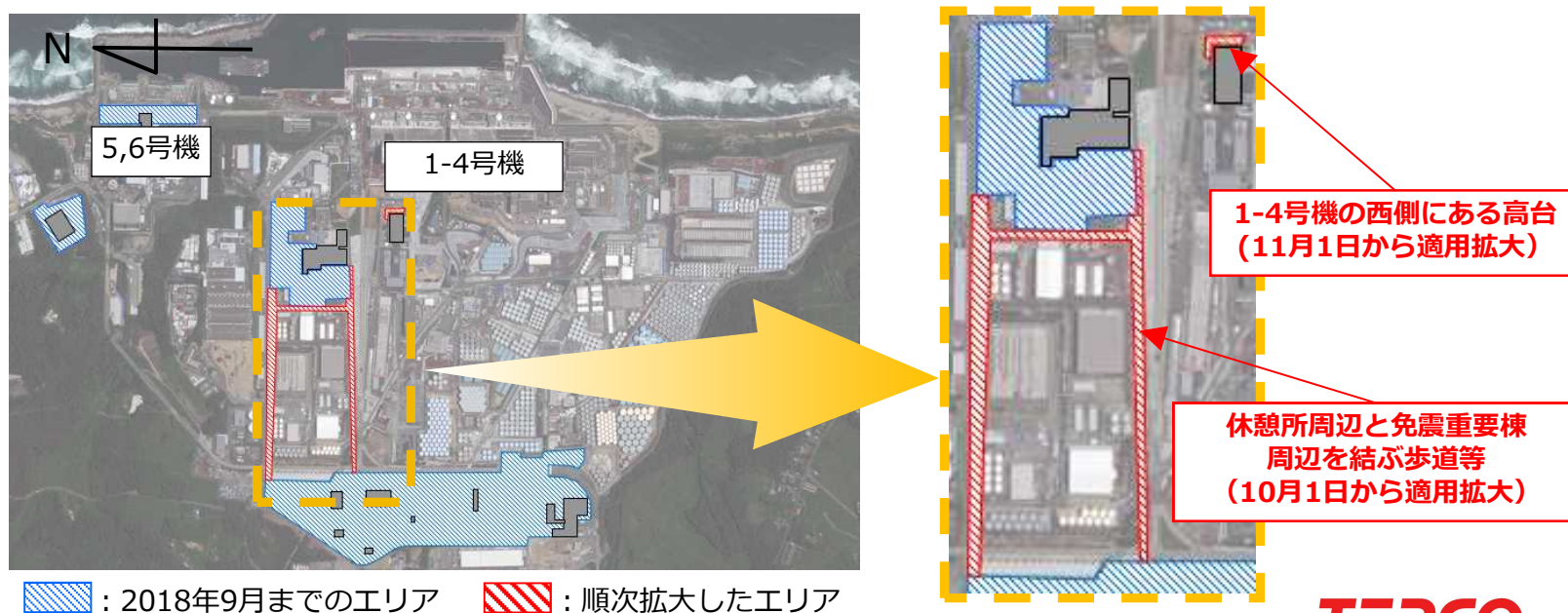
表1.ゾーン・エリア毎の主な装備

	主なエリア	主な追加装備
Red zone	1-3号機 原子炉建屋内部等 ※4号はフロアによる	防護服とアノラックの重ね着 ヘルメット 全面マスク、手袋、作業用長靴
Yellow zone	1-4号機※ 建屋周辺等	防護服・ヘルメット 全面マスクor半面マスク+ゴーグル 手袋、作業用靴
Green zone	上記除く 構内の大部分	ヘルメット 使い捨て防じんマスク、ゴーグル 手袋、作業用靴
手袋の着用 のみで移動が 可能な範囲	入退域管理棟 休憩所周辺 免震重要棟周辺	手袋 ※作業を行う場合はGreen zoneに準じる

図1.発電所構内におけるゾーンレイアウト

2. 追加装備不要で移動・ご視察等が可能な範囲の拡大について

- 発電所で働く作業員のさらなる負担感の軽減ならびに廃棄物の低減を目的に、手袋着用のみで移動が可能な範囲については、汚染低減が進んで移動者の手袋が汚染しないことを確認できたことから、**10月1日から、手袋も含めて追加装備は不要で移動が可能**とし、さらに**休憩所周辺と免震重要棟周辺を結ぶ歩道等にも適用拡大**しました。
- また、廃炉を進めていく上で、社会の皆さまに現場の状況を直接見て、発信いただくことも重要であると考えています。そのため、**1-4号機の西側にある高台**についても**11月1日からお越しいただいたままの服装でご視察等が可能**としました。
- これにより、ご視察等における装備の負担感もなくなり、さらには、構内に入域される準備時間の短縮につながっていきます。
- 引き続き、作業環境の管理を徹底し、作業員の安全確保を第一に、廃炉作業に取り組んでまいります。



©Tokyo Electric Power Company Holdings, Inc. All Ri

図2. 追加装備不要で移動・ご視察等が可能な範囲

TEPCO

写真提供：日本スペースイメージング（株）、(C)DigitalGlobe

(参考) 11月1日 内堀知事の視察状況

内堀知事 福島第一原発を視察

11月01日 19時13分



内堀知事がおよそ1年ぶりに福島第一原発を訪れ、使用済み核燃料を取り出すための設備などで不具合が相次いでいる3号機などを視察し、着実に廃炉を進めることや適切な情報発信を求めました。

先月28日の県知事選挙で2度目の当選を果たした内堀知事の福島

第一原発の視察は去年11月以来、およそ1年ぶりです。

東京電力の小早川智明社長などと構内を回り、まず、1日から手袋やマスクをせずに行けるようになった高台から、1号機から4号機までをふかんしました。

その後、設備の不具合が相次ぎ、使用済み核燃料の取り出しが遅れている3号機では、建屋の最上階に上がって、安全点検の進み具合などの説明を受けました。

このあと報道陣の取材に応じた内堀知事は、「全体をふかんでできる場所で、通常のスタイルで確認できるのは大きな進歩だ。この1年で、廃炉作業が着実に進んでいると実感した」と述べたうえで、相次ぐトラブルについて、「安全に着実に廃炉を進めることが福島県民の強い思いだ。事前の準備や意思疎通をしっかりとってもらい、海外の企業との連携も密にしてほしい」と述べました。

東京電力がSNSで福島第一原発の写真を「#工場萌え」というハッシュタグを付けて発信し批判を浴びたことについては、「受け取る人が不快な思いや複雑な思いになっては元も子もない」と述べ、適切な情報発信を求めました。

(引用)

「NHK NEWS WEB」より

<https://www3.nhk.or.jp/lnews/fukushima/20181101/6050003272.html>